

憂楽帳

高校生時代から中国と日本を行き来する大谷和正さん(37)に、手紙を見せてもらった。差出人は陳林溪さん(62)。「日本人の父を捜したい」とあった。大谷さんは、仕事先で知り合った陳さんの娘(38)から託された。

陳さんの母、陳桂貞さんは戦前、南部の古都、江西省九江市で金属回収業「森田商会」の社員、益野貞二さんと結婚した。戦後、貞二さんは帰国。桂貞さんは祖国にとどまり翌年2月、陳さんが生まれた。反日機運がまだ強い時代。桂貞さんは迫害を恐れ、死ぬま



一目会いたい

で父の名を告げなかった。ようやく困窮生活を抜け出した00年に、親族から父の名を聞き、日々、思いが募っている。手紙にはそう書かれていた。

真偽は確かめようがない。同姓同名の人が中国から帰国したのは厚生労働省で確認できた。だが「出身地などが分からないと特定は難しい」という。

戦後の中国で、陳さんのような境遇に置かれた人は少なくないのだろう。手紙は「見たことはない父だが、一目会いたい、少しでも親孝行がしたい」と結ばれていた。

【山科武司】